

案内書

第68回日本生物工学会大会 附設
機器・試薬・書籍等

展示会

環境問題

食糧問題

医療問題

エネルギー問題

期日

2016年9月28日(水)・29日(木)・30日(金)

会場

富山県/富山国際会議場 3F
(富山県富山市大手町1-2)

● **主催**

(公社)日本生物工学会

大会実行委員長 伊藤 伸哉

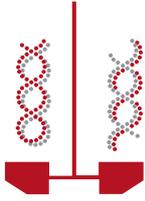
(富山県立大学工学部生物工学科 教授)

● **運営管理/申込先**

株式会社 エー・イー・企画

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-4-4 岩波書店一ツ橋別館4F

電話 03(3230)2744(代表)



大会開催のご挨拶

各位 殿

謹啓 貴社にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は日本生物工学会の諸事業に格別のご高配、ご支援を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、第68回日本生物工学会大会は、平成28年9月28日（水）～30日（金）の3日間、富山市において開催されます。今回の大会は、JR富山駅より徒歩圏内にある富山国際会議場-ANAクラウンプラザホテル富山を会場として、一般講演（ポスター）、シンポジウム、展示等のすべてのセッションを開催いたします。また大会会場を中心に宿泊施設も多数あり、参加者の皆様の利便性を重視した大会となっています。大会の中心となる一般講演（ポスター発表、約700件）の会場は都合により二会場となりますが、展示と休憩場所、シンポジウム・ポスター、懇親会会場のすべてが隣接した二会場にまとまっており、展示に多くの参加者が集まるようにスペースやレイアウトを工夫いたしました。

シンポジウムは「国際的なバイオの展開を目指して」を統一テーマとし、グローバル化を意識し、海外留学生や研究者にも門戸を開く英語での国際シンポジウムを6件開催する予定です。もちろん新たな切り口の醸造・発酵、培養計測技術、酵素や代謝工学を駆使した物質変換、バイオマスの利用、セルエンジニアリングの革新技术、生物情報技術の応用など、若手の研究者の提案を中心に次世代を強く意識したシンポジウムとなっています。また、若手会の主催する口頭発表もポスター発表と同時に開催します。

日本海側での大会開催は今回が初めてであり、開催地である富山県は立山連峰や富山湾などの自然、特色ある温泉やトロッコ電車などの多彩な観光資源に恵まれています。昨年には北陸新幹線が開通し関東からの利便性は著しく向上しました。またホタルイカや白エビなどの特色ある海の幸、ブラックラーメンや氷見うどんなど、食もバラエティに富んでおり、これらを懇親会でもお楽しみいただく予定です。

現在、中部支部メンバーで構成した大会実行委員一同、円滑で活気のある学会運営を行うよう全力を挙げて準備を進めております。このビジネスと交流のまたとない機会を生かして頂くために、本大会への御出展を是非ともお願いしたく存じます。

なお、展示運営業務に関しては株式会社エー・イー企画に依頼しております。お問い合わせ・お申込みは、同社宛に直接ご下命下さいますようお願い申し上げます。

謹白

平成28年3月

第68回日本生物工学会大会

実行委員長 伊藤 伸哉

（富山県立大学工学部/生物工学研究センター）



シンポジウム課題は下記の通りです (出展の参考にして下さい)

① Japan-Korea Joint Symposium "Deployment in Medical Engineering Using Advanced Nano- and Micro-biotechnology" 《国際シンポジウム》

日韓ジョイントシンポジウム

「先端ナノ・マイクロ・バイオ技術を用いたメディカルエンジニアリングへの展開」

▶オーガナイザー: 朴 龍洙(静岡大)・民谷 栄一(阪大)

昨今のナノ、マイクロテクノロジーは、産業全般における重要なイノベーションの基盤となっている。他方、バイオテクノロジーは生物工学の根幹を成しており、ナノとマイクロテクノロジーとの融合による新たな学問を築き上げている。本シンポジウムでは、ナノ・マイクロ・バイオテクノロジーが向かっているメディカルエンジニアリングに焦点を当て、当分野で活躍されている日本と韓国の研究者らによる研究紹介と討論できる場を設けたい。

共催：ナノバイオテクノロジー研究部会

② 新規な核酸関連酵素の開発とその産業応用

▶オーガナイザー: 藤原 伸介(関西学院大)・保川 清(京大)

核酸関連酵素は今日のポストゲノム研究とバイオテクノロジーを支えている。今後、画期的な分析法、製造法、治療法、診断法を開発していくには、DNAの検出だけではなくRNAの高感度検出も重要になってくる。本シンポジウムでは、逆転写酵素、DNAポリメラーゼ、ヘリカーゼ等の核酸関連酵素に関する機能改変(安定性の向上、新規な酵素活性の付与)と応用(核酸増幅反応、核酸クロマト、マイクロアレイ等)に焦点を当て、最近の研究結果と新技術開発の展望を紹介する。

③ 2D/3Dプリンタを用いる細胞操作の可能性

▶オーガナイザー: 藤田 聡史(産総研)・境 慎司(阪大)・秋山 佳文(信州大)

高い精度で任意の位置に溶液、ゾル、ゲルを配置できるプリンタは、タンパク質や遺伝子のみならず1細胞配列、組織や臓器の構築や操作にも利用されるなど、バイオエンジニアリング分野でその用途は拡大している。特に、3Dプリンタの急速な普及は、社会的にもそれを用いた新たな技術開発への関心を高めている。本シンポジウムでは、2D・3Dの各プリンタを用いて精力的に研究を行っている若手研究者の最新の研究成果を報告し、当該技術の将来展望、生物工学分野での可能性についてシニアのオブザーバーとともに意見交換を行う。

④ 遺伝子改変技術によるセルエンジニアリングの革新:産業応用に向けて

▶オーガナイザー: 河邊 佳典(九大)・河原 正浩(東大)

近年、遺伝子改変技術を利用して機能性細胞を創製する生物工学的アプローチが盛んになってきた。さらにゲノム編集技術の急速な進展により、ゲノムの特定の位置を標的としたゲノム改変を自由自在にできるようになってきた。遺伝子改変技術によるセルエンジニアリングは、基礎研究のフェーズから物質生産・創薬・再生医療等の産業応用に向けた時代へと大きくシフトしつつある。本シンポジウムでは当該分野の最新の研究成果発表により現状把握と安全性を含めた問題点の抽出を行い、産業への実用化の道筋について議論を深めたい。

⑤ Gap Filling of Metabolic Pathway and Application to Producing Valuable Compounds 《国際シンポジウム》

「代謝経路中の未知酵素遺伝子の探索と有用物質生産」

▶オーガナイザー: 中島 信孝(東工大)・田村 具博(産総研)

微生物の代謝経路がゲノムレベルで解明され、KEGGなどのデータベースに大量の情報が格納されるようになった。しかしそれでもなお、代謝反応を触媒する酵素が同定されていない「Orphan enzymes」が多く存在する。そこで、wetあるいはdry研究の双方の観点から、これら酵素を同定する研究が世界的に活発化している。本シンポジウムは、その最新情報や最新技術について、日本国内のみならず、海外からの研究者も招き議論することを趣旨とする。

⑥ Toward Sustainable Palm Oil Industry Coexisting with Environmental and Biodiversity Conservation 《国際シンポジウム》

「環境保全・生物多様性との両立を可能とする持続型パーム油産業を目指して」

▶オーガナイザー: 酒井 謙二(九大)

バイオマス利用産業の世界展開は低炭素社会の形成に有効であり、その研究開発は炭酸ガス排出取引を通じてわが国にとって大きな意味を持つ。パーム油産業はそのトップランナーの一つであり、東南アジア熱帯、亜熱帯地域で重要な位置を占めているが、バイオマス利用産業自体は環境に優しいことも持続的であることも保証していない。本シンポジウムでは、バイオマスのトータルな利用と廃棄物の環境中放出の最小化と共に、自然林や稀少生物などの多様性保全といかに両立するかについて議論する。

⑦ 生命ビッグデータの利活用による生物工学のイノベーション

▶オーガナイザー: 富田 因則(静岡大)・石井 一夫(東京農工大)

近年、次世代シーケンサーや質量分析装置の発達により、ゲノミクス、プロテオミクスを中心としたオミクス解析が日常的に利用されるようになり、情報爆発が生じている。これらの生命科学ビッグデータの利活用は、生物工学分野において革命的な学問進歩とイノベーションを起こしつつある。例えば、個別化医療やゲノム育種、メタゲノム解析による環境評価などである。本シンポジウムでは、生命ビッグデータの収集、解析の現状とそれから派生する生物工学におけるイノベーションについて各分野の精鋭の研究者による成果と展望について議論したい。

⑧ 10th Japan-Korea Biomass Symposium 《国際シンポジウム》

「第10回 日本-韓国バイオマスシンポジウム」

▶オーガナイザー: 田丸 浩(三重大)・近藤 昭彦(神戸大)

地球環境の持続・人口増加・脱石油・成熟社会で新価値の創造などに対応するため、バイオマス資源や微生物・動物・植物を有効に活用して、エネルギー・燃料・化成品・マテリアル・高付加価値食品などを生産する上流から下流まで一貫した実用化技術・商品開発が期待されている。本シンポジウムでは、日本の研究者(2名)に加えて、韓国の研究者(3名)を招待し、最新の研究成果の発表と情報交換を行う。

共催：NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議

⑨ 有用微生物の農作物への新しい展開とその将来像

▶オーガナイザー: 高木 忍(ノボザイムズ)・安枝 寿(味の素)

松山 彰収(ダイセル)・石井 正治(東大)

昨今の急激な人口増加を支える食糧の増産と、化学農薬の使用規制による代替農薬の必要性から、農業用微生物資材に対する期待が高まっている。今回は、このような農業用微生物資材に焦点を当て、微生物資材の現状と、植物と微生物の相互作用に基づいた農作物への有用性に関する理解を深めたい。

共催：バイオインダストリー協会 新資源生物変換研究会、発酵と代謝研究会、アルコール・バイオマス研究会

⑩ Biotechnology of Enzymes in Aldoxime-Nitrile Pathway from Microorganisms, Plants and Animals 《ERATO Asano Active Enzyme Molecule Project 国際シンポジウム》

「微生物、動植物由来アルドキシム-ニトリル経路関連酵素のバイオテクノロジー」

▶オーガナイザー: 浅野 泰久(富山県大; JST ERATO)

微生物のアルドキシム-ニトリル経路はニトリルヒドラーゼなどの重要な産業用酵素を含む。一方、植物由来のヒドロキシニトリルリアーゼも光学活性シアノヒドリンの合成用触媒として用いられている。今回、本分野の国際的に著名な研究者3名(候補:Anton Glieder(オーストリア産業バイオテクノロジーセンター所長); Huimin Yu(精華大学准教授); Ulf Hanefeld(デルフト工科大学教授)など)を招聘し英語でのシンポジウムを行う。

共催：ERATO浅野酵素活性プロジェクト

⑪ Artificial Molecular Design to Create “Neobiological Molecules”【国際シンポジウム】

「人工分子デザインによるネオバイオ分子の創出」

▶オーガナイザー：新井 亮一（信州大）・伊東 祐二（鹿児島大）

タンパク質・核酸・糖鎖等のバイオ分子は、生物が環境に適應して生きるために長年進化してきた機能分子である。新しい人工バイオ分子の創出を目的として、バイオ分子の進化を実験室内でいかに高速化するか、いかに合理的に設計するか等、様々なアプローチで新分子創生に挑んでいる生物工学関連分野の研究者が一堂に会することで、天然分子を超えた“ネオバイオ分子”の創生及び応用を目指す新研究分野を開拓する。

協賛：AMED「革新的バイオ医薬品創出基盤技術開発事業」

⑫ 和食の機能性のメカニズム—生活習慣病予防、腸内細菌へのインパクト—

▶オーガナイザー：北垣 浩志（佐賀大）・中山 二郎（九大）

和食は日本人の健康に寄与している可能性が高いが、そのメカニズムは充分明らかになっていない。このことは世界的な和食のアピール、食品企業の開発の障害になっている。そこで本シンポジウムでは、和食の機能性のメカニズムを追及している研究者を集め、シンポジウムを開催する。新しい研究分野に挑戦している、若手の研究者を中心に講演者に選定する。本世話人らの研究は農林水産省・食品産業科学技術研究推進事業に選定されており、客観的な評価を受けている。

⑬ 学会活動が先導する実用化研究・技術～学会は産官学の出会いの場となれるか～

▶オーガナイザー：中澤 昌美（大阪府大）・岩木 宏明（関西大）

大橋 正孝（奈良県産業振興総合センター）・小高 敦史（月桂冠）

生物工学分野において、新しい価値を創造する研究・技術開発が進む中で、異なる研究機関の有機的連携による取り組みがイノベーションの源泉となっている。本シンポジウムでは、産官学連携から生まれた革新的なイノベーションの実例を紹介するとともに、学会がこのような連携を活発に推進する場となりえているかについても議論する。連携成功の舞台裏や秘訣を学ぶと同時に、各人の学会活動の意義を再考し、産官学連携が生まれる場としての学会像を提供したい。

⑭ 生物工学研究者の生命情報との向き合い方～バイオインフォマティクス入門から応用へ～

▶オーガナイザー：牧野 智宏（アスピオファーマ）・蟹江 慧（名大）・児島 孝明（名大）

高速DNAシーケンシング解析技術の普及により、ゲノム解析を始めとする様々な生命科学データが日々集積されている。同時に、スーパーコンピュータによるCPU・GPU計算処理能力の飛躍的な向上に伴い、生命情報を比較的容易に解析することが可能となっている。今後、生物データを論理的かつ効率的に分析し、生命を理解するバイオインフォマティクスが、生物工学分野においてますます重要になってくることは間違いない。本シンポジウムでは、生物工学の視点から、いかにして多種多様な生命情報に向き合っていくかを、基礎から応用まで、食品・医薬品・医療分野への応用を目指した事例を中心に紹介し、その将来展望について議論する。

⑮ バイオエンジニアリングにおける分析科学の新たな展開

▶オーガナイザー：座古 保（愛媛大）・迫野 昌文（富山大）・上田 宏（東工大）

先端技術や研究手法の開発は科学・工学の発展の両輪である。近年では次世代シーケンサーをはじめとする大規模解析法や、ナノテクノロジー、ケミカルバイオロジーを駆使した分析計測手法の発展により、極微量の生体物質の検出・同定等が発見に行われつつある。本シンポジウムでは、これらの開発・応用展開など様々なフェーズにおける先端研究者、企業における研究開発の最前線に携わる研究者が一同に会し、先端バイオ分析が生物工学に果たしうる役割と今後の展望について議論する。

⑯ 酒類製造における革新技術【本部企画】

▶オーガナイザー：堤 浩子（月桂冠）

近年、消費者ニーズは多様化し、酒類醸造業界はそのニーズに対応した商品を開発している。商品開発において、日進月歩しながら醸造技術の開発が同時に行われている。本シンポジウムでは、清酒、ビール、焼酎、リキュールなどそれぞれの分野から今の醸造技術としてなくてはならない技術、新しい取り組みなどについて第一線のシンポジストからご講演いただき、発酵産業を支える技術として、若手会員の育成、産学連携を公益に繋がることを期待される。

⑰ 培養計測技術の最近のトピックス【本部企画】

▶オーガナイザー：児島 宏之（味の素）

微生物のみならず幅広い生物の能力を生物工学的な手法で発揮させ、産業利用につなげることが強く期待されている。そのための培養技術、計測技術の最近のトピックスを学術界および産業界の第一線のシンポジストから御講演いただく。最先端の技術開発とその展開に関するディスカッションは幅広い事業展開を通じた商業的發展に向け、産学連携を介した公益につながることを期待される。

⑱ 植物代謝工学研究最前線～新産業創出に向けて～

▶オーガナイザー：村中 俊哉（阪大）・岡澤 敦司（大阪府大）・田口 悟朗（信州大）

植物由来の生理活性物質は、現在および将来において健康、医療に大きな役割を果たすと考えられるが、資源の枯渇、名古屋議定書を盾とした資源の囲い込みなどにより、これらの安定かつ持続的な供給には深刻な問題が存在している。一方、オミクス科学、合成生物学、ゲノム編集技術などの急速な進展により、植物有用物質の代謝工学研究が新たな局面を迎えている。本シンポジウムでは、植物有用生理活性物質生産の産業化に向けた植物代謝工学の研究の最前線について報告するとともに、今後の本産業分野の潮流を展望する。

共催：農林水産省・食品産業科学技術研究推進事業（発展融合ステージ）

「高度機能分化した植物組織培養による有用サブノン生産技術開発」

⑲ 微生物の潜在能力に注目した有用二次代謝産物の「ものづくり」戦略

▶オーガナイザー：荒川 賢治（広島大）・大利 徹（北大）

土壌微生物として知られる放線菌は、抗生物質などの有用二次代謝産物を生産し、そのゲノム上には1菌株あたり30種類以上の二次代謝生成クラスター（設計図）が見いだされる。しかし、そのうち通常培養で生産される化合物は1-2割程度あり、二次代謝生産能に興味を持たれる。本シンポジウムでは微生物の生物機能に注目し、生合成酵素を利用した高機能化合物生産、遺伝子発現制御を基軸にした休眠二次代謝の覚醒技術に焦点を当て、生物工学や代謝工学を駆使した「ものづくり」の研究成果および将来展望について議論する。

⑳ セルフリー（無細胞）タンパク質合成技術の新展開

▶オーガナイザー：松浦 友亮（阪大）・清水 義宏（理研）

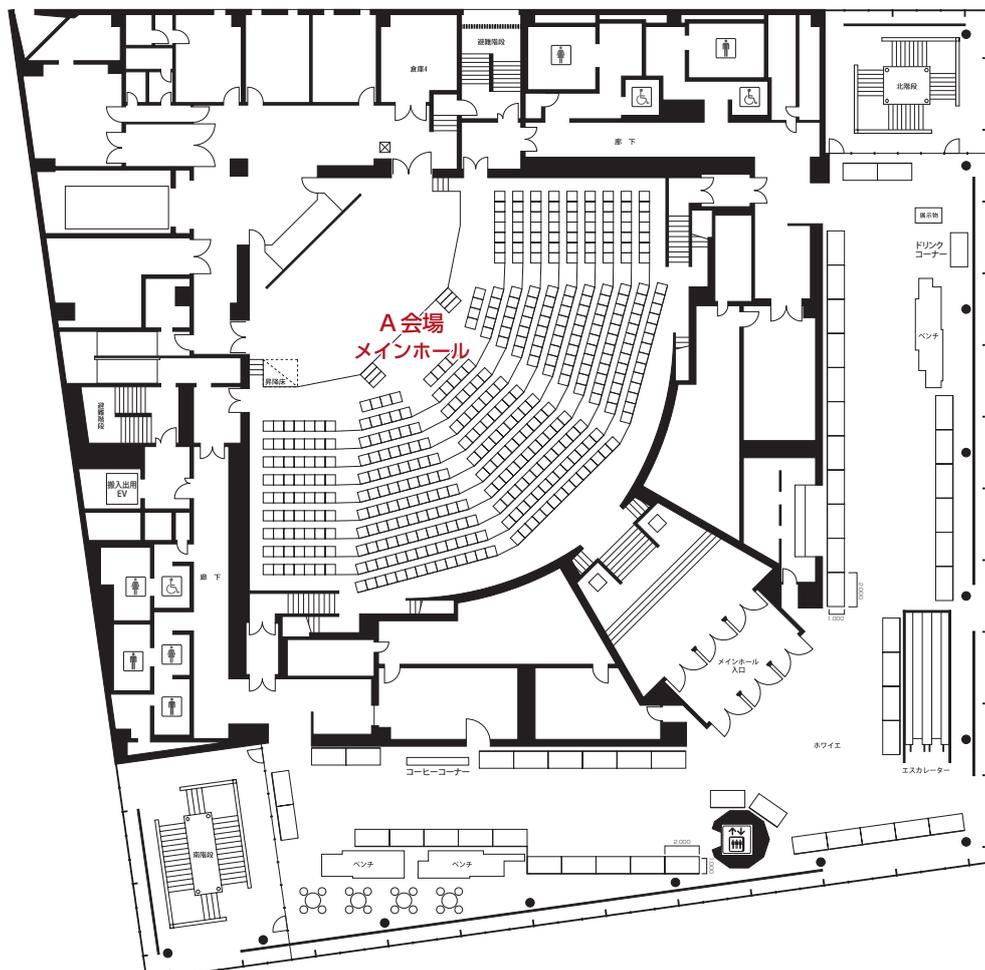
セルフリータンパク質合成系は、細胞を使うことなく試験管内でタンパク質を合成する系である。我が国は、歴史的にセルフリータンパク質合成系の開発に強みを持ち、大腸菌由来、小麦胚芽由来、ヒト細胞由来、再構成型セルフリータンパク質合成系などが開発・製品化されてきた。近年、セルフリー系の新しい使い方が広まってきており、新たな分野が作り出されつつある。本シンポジウムでは、若手研究者を中心とした講演者によりセルフリー系を用いた応用研究を紹介いただき、今後の新たな展開について議論する。

共催：無細胞生命科学研究会



展示会場小間割図 (予定)

(富山国際会議場 3F)



1Fが受付、クローク
2Fがポスター会場、B会場となります。
(講演会場C, D, E会場は、隣のANAクラウンプラザホテル富山)

● 学会では下記のような一般講演が行われます。

技術分野		対象	
分野			
遺伝学、分子生物学 および遺伝子工学	分類、系統、遺伝学 遺伝子工学	原核微生物 真核微生物 酵母 糸状菌 アーキア	システムバイオロジー ナノバイオテクノロジー マイクロアレイ ゲノミクス プロテオミクス
酵素学、タンパク質工学 および酵素工学	酵素学、酵素工学 タンパク質工学 抗体工学	特殊環境微生物 光合成微生物 藻類 植物細胞 動物細胞	メタボロミクス ケミカルバイオロジー バイオイメージング PCR 分子育種
代謝生理学・発酵生産	発酵生理学、発酵工学 代謝工学 オミクス解析	植物 動物 有機酸 乳酸 脂質	情報 情報伝達 培養制御 固定化 分離、精製
醸造・食品工学	醸造学、醸造工学 食品科学、食品工学	糖、糖鎖 核酸、ゲノム プラスミド、ファージ RNA、RNAi 生理活性物質	組織培養 組織、器官 医薬、医薬品 食品 免疫
環境バイオテクノロジー	環境浄化、修復、保全技術 環境工学、排水処理技術 バイオマス、資源、エネルギー工学	抗生物質 アミノ酸 ペプチド 生体高分子 タンパク質	ロボット 生態工学 CO ₂ H ₂ エタノール
生物化学工学	生物化学工学 培養工学、 バイオプロセス	抗体 酵素：糖質関連 酵素：ペプチド・ アミノ酸関連 酵素：脂質関連 酵素：その他	難分解物質 生分解物質 廃棄物 水 土壌
植物バイオテクノロジー	植物細胞工学、組織培養、育種工学		
動物バイオテクノロジー	生体医用工学、人工臓器 セル&ティッシュエンジニアリング		
バイオ情報	生体情報工学、バイオインフォマティクス システムバイオロジー		
センサー計測技術	センサー、計測工学 バイオセンシング、分析化学		
生体関連化学	有機化学、高分子化学 生合成、天然物化学		
生体分子工学	核酸工学 ペプチド工学 脂質工学 糖鎖工学		

● 学会参加人数(昨年) 1,600人



出品要綱

会期

2016年9月28日(水) 9:00 ~ 18:00

9月29日(木) 9:00 ~ 18:00

9月30日(金) 9:00 ~ 16:00

※予定です。

会場

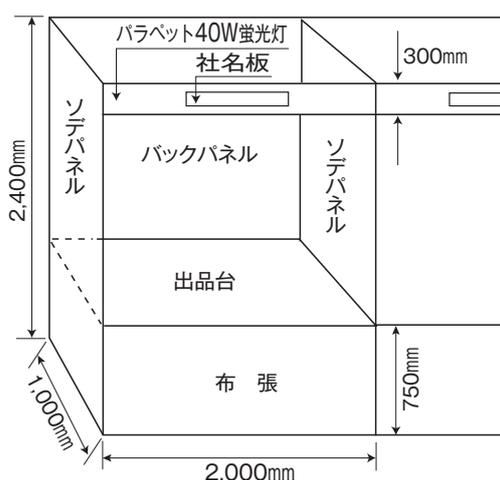
富山国際会議場 3F
(富山県富山市大手町1-2)

小間規格と出品料金

◆ Aタイプ(機器・試薬等)

216,000円

(小間料金¥200,000+消費税¥16,000)



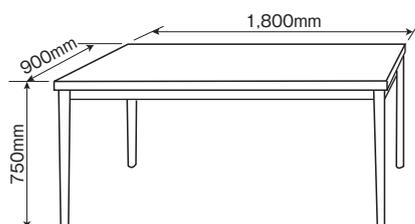
- ◎ 小間サイズ：W2,000×D1,000×H2,400mm
- ◎ セット内容：バックパネル(蛍光灯40W、社名板付)、イス1脚、出品台(W1,800×D900×H750mm、白布にて台上を覆い、腰は青色系の布で覆います)
- ◎ システムパネル(オクタノルム式)を使用(白系ビニールコーティング合板システム)釘打ち、穴あけ、ピン等の取付け、表具等の加工はできません。パネル等の取付けは、専用チェーンにてお願い致します。
- ◎ パネルの色変更は、カッティングシートにて可能です。事前にご連絡ください。

◎1小間当たり1名様親会に招待いたします。

◆ Bタイプ(書店、出版社のみ)

32,400円

(小間料金¥30,000+消費税¥2,400)



- ◎ 小間サイズ：出品台のみ
- ◎ セット内容：出品台(W1,800×D900×H750mm、白布にて台上を覆い、腰は青色系の布で覆います)社名板付、折りたたみイス 1脚

電力料金

(料金には消費税が含まれております)

電力(100V)ご使用の場合、電源仮設工事費および消費電力料金は出品者の負担になります。料金は下記の通りです。

500Wまで/¥32,400 501W以上1KWまで/¥37,800

※ ただし、1KW以上ご使用の場合は、1KW増すごとに¥16,200を加算させていただきます。

※ 200V(三相・单相)をご使用の場合は、別途仮設となり割高になりますのでご了承ください。料金は会期後にご請求いたします。

出品申込方法

- (1) 申込方法 規定の申込書(別紙)に必要事項をご記入の上、Faxかメールにてお申込みください。
- (2) 申込締切日 **2016年6月30日(木)**
※小間数に制限がありますので、お早めにお申込みください。
- (3) 申込先 **株式会社 エー・イー企画**
第68回日本生物工学会大会展示会係 担当：関根一成・西尾文利
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-4-4 岩波書店一ツ橋別館4F
電話 03-3230-2744(代表) FAX 03-3230-2479
E-mail : sbj@aeplan.co.jp
- (4) 振込銀行 みずほ銀行 九段支店 普通 1685783 68生物工学展示会事務局

小間の割当て

出品申込みを受付後、出品物の種類・形状・重量・小間数などを考慮の上、出品者にご通知申し上げます。出品者説明会は行いませんのでご了承ください。

出品の取消し

出品申込書の提出後は、学会事務局が不可抗力と認めた事故以外は取消しはできません。したがって出品料金の返却はいたしませんのでご了承ください。

展示出品台

基礎小間に既設出品台が付いておりますが、床面に直接機器類を設置したい場合は申込書に出品台不要のご記入をしてください。

なお、展示出品台の有無の変更は搬入日の2週間前までにお申出ください。

出品物の管理

各出品物の管理は出品者が責任をもつものとし、展示期間中の出品物の盗難・紛失・火災・損傷など、不可抗力による出品物の損害に対して、補償などの責任は一切負いませんのでご了承ください。

出品物の搬入・搬出

細部につきましては、後日出品者にご通知申し上げます。

搬入 2016年9月27日(火) 14:00 ~ 18:00 まで

搬出 2016年9月30日(金) 16:00 より



会場案内図



- JR富山駅よりお越しいただく場合
バス…約5分「城址公園前」下車 徒歩3分
徒歩…城址大通りを南へ約15分
市内電車(セントラム)…約7分「国際会議場前」下車
- 富山空港よりお越しいただく場合
タクシー…約20分
バス(空港連絡バス)…約25分「総曲輪(そうがわ)」下車 徒歩2分
- お車(北陸自動車道)でお越しいただく場合
富山ICより約10分
富山西ICより約20分

2016年度 日本生物工学会大会 展示会

出展申込書

2016年 月 日

出展社案内のホームページや、出品目録で英文併記しますので、お手数ですが必ず下記項目をご記入ください。

会社名	和文			
	英文			
ご連絡先	和文	住所 〒		
		TEL.		FAX.
	英文	住所		
		TEL.		FAX.
ご連絡先 E-mail Add				
ホームページ URL				
ご担当者名				
担当部署名				

申込小間数 () 小間	使用電力量 100V()W 200V()W (単相・三相)	展示出品台 () 小間必要 () 小間不要
出品料金	電源仮設料金	

展示出品物	寸法			重量 (kg)	点数
	幅(mm)	奥行(mm)	高さ(mm)		

申込締切日：2016年6月30(木)